

抑留中の労苦記録

山梨県 渡辺 継久

(一) 出生から入隊まで

- ① どこで出生……山梨県南都留郡忍野村内野
- ② いつ出生……大正九(一九二〇)年三月十日
- ③ 学校……忍野村小学校高等科卒業

(二) ソ連軍侵攻前

- ① いつ入隊……昭和十六(一九四一)年八月十五日
- 召集

- ② 入隊場所……満州国北安省神武屯
- ③ 駐屯地……歩兵第六八六部隊

戦地……満州国警備

(三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

- ① いつ……昭和二十年八月二十日
- ② どこで……ソ満国境地下東監視塔要塞
- ③ どんな状況で……終戦を知らないで監視中、ソ連

兵に捕まった。

(四) 終戦

- ① 詔勅……何も知らなかった。
- ② 感想……日本が負けたのはデマだと思った。
- ③ どう終戦したか……そのまま北安の飛行場に行き
收容された。

④ 武装解除から收容所入りまで……北安飛行場でソ連の收容所に入れられた。

(五) シベリア抑留地への移送

① いつ頃……九月一日ごろ、千人の作業大隊に編成された。

② この地点からどこへ送られた……北安の收容所から徒歩でソ連の鉄道のある所まで歩いた。

何日くらい……十五日間

③ 第一次入ソ場所……ブラゴエシチェンスク
いつ……九月二十日ごろ

(六) 抑留地の生活

① 第一次收容所どこ……ブラゴエシチェンスク
收容人員……八百人くらい

②生活の様子……最初は天幕、自力で木造丸太宿舎を建てた。

住まい……丸太宿舎、一棟百人くらい。二段ベッド

食事……ノルマによる給食だった。満州の押収食糧。

仕事……バム鉄道敷設工事 ノルマ……あった
衣服……夏服を着たまま 入浴……月一回

シラミ……出た出た 南京虫等……なかった
伝染病……出なかった

③作業の状況

主作業……鉄道の敷設、枕木並べ、鉄路の設置。
皆で工夫してよく働いた。

ノルマ達成状況……いつも一二五%働き、誉められた。

単位……個人も中隊も一二五%

中隊または収容所……全隊よく働き一二五%達成した。

グループ……一二五%もよくやった

④給与……支給はなし

(七) 労役

①どういう労役についたか……帰るまで鉄道敷設工事だった。

②収容人員……八百人
宿舎……丸太小屋、自作

③冬最低温度……零下四〇度以下になると作業中止。最低、零下五〇度

冬はどうして生活したか……ペチカで暖房した。
薪は作業場から自力で運んだ。

労役が一つに止まらないときはどうしたか……なし

④労役の時間……朝八時から八時間

内容……鉄道敷設工事

⑤労役に堪えられない者はどうされたか……三級弱者は休養室、病人は入院させた。

⑥健康管理は……特別になし。月に一回、女医の健康診断。

⑦常日頃健康を保つ上で役に立つことは……気力だ

け。野草を食った。

⑧ 衣服について扱われたことは……一度も支給なし。

(八) 抑留者の統制管理

① 労役につく基準……健康者、一級、二級

② 労役免除……三級以下は重労働免除

③ 健康管理……月一回、健康診断があった。

④ 点呼・作業場への出入……朝晩、作業場への出入

⑤ 着衣・衣服……着たままで、支給なし

⑥ 食事の状況……基準はあったが、ピンハネが多く
欠食が多かった。

⑦ 休日……なし。雨天と零下四〇度以下の時

⑧ 収容所施設、構造……木造丸太造り宿舎（ログハウス）

⑨ 洗脳教育……昭和二十一年夏から週に二時間くらい

⑩ 収容所生活全般……一般に明るい生活だった。

⑪ 懲罰……ノルマが良かったのでなかった。

(九) 抑留中の生活と極限状態

① 乗りこえてきた信念……みんなで助け合った。死んでたまるかと。

② 生死の境、死に直面したときの感想……別になかった。

③ 心身を支えた工夫……食事を大切にした。野草も食べた。

(十) 帰還

① ダモイをいつ、どこで聞いたか……昭和二十二年十月初め、収容所で聞いた。

② 集結地……イズベストコーワヤから汽車（家畜車）でナホトカへ。

③ 乗船名……恵山丸（昭和二十二年十月三十日）

④ 船内生活……船内で赤組が吊るし上げられた。

⑤ 上陸地……舞鶴港

⑥ 収容期間……昭和二十年八月十五日―二十二年十月三十日、二年三カ月（二十七カ月）

(十一) 帰国後の生活

帰国後、家業の農事に従事して生計を立てた。

(十二) 最後に子孫や国民に言い遺したいこと

戦争は絶対やってはならない。日本の平和憲法を守ることは大切である。

親子兄弟仲良く、よく働いて暮らせよ。

抑留中の労苦記録

山梨県 後藤 茂

(一) 出生から入隊まで

①どこで出生……山梨県南都留郡忍野村内野

②いつ出生……大正十一（一九二二）年十一月十六日

③学校……忍野小学校高等科卒業

(二) ソ連軍侵攻前

①いつ入隊……昭和十八（一九四三）年二月二十日

現役

②入隊場所……甲府四九連隊入営

昭和十八年三月二十六日出征 渡満

北安第六八六部隊 四月一日入隊

③駐屯地……北安省北安

戦地……満州国

(三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

①いつ……昭和二十年八月十日夜中

②どこで……孫呉地区国境陣地内。

③どんな状況で……特設塹壕陣地内で対戦した。

(四) 終戦

①詔勅……直接は聞かなかったが、八月十七日、部隊長から聞いた。

②感想……日本が負けるとは思わなかったが、これで生きて日本に帰れると嬉しかった。

③どう終戦したか……孫呉の兵舎が收容所となり、捕虜となる。

④武装解除から收容所入りまで……孫呉收容所で作業隊編成、千人くらいずつ徒歩で三日くらい歩いてブラゴエンチェンスクに船で入った。

(五) シベリア抑留地への移送

①いつ頃……昭和二十年九月三日ごろ、船でニコライエフスク着